

（県央史談会平成二十八年一月十七日（日）史跡めぐり）

伝・荻野四郎忠義一族の供養塔と居蹟（用田神社）

当会は半世紀以上も続いていますが、荻野の地名を姓にした荻野氏に関する史跡めぐりは一度もしていません。故鈴村茂さんは、『県央史談』第二十号「荻野郷より起きた荻野氏」で「（荻野四郎居蹟は）現在、厚木国際カントリークラブの敷地内となつたが、ここを荻野氏の館跡と呼んだ理由はあきらかでない。尚、中荻野公所（ぐじよ）の小野吉男氏方に荻野四郎一族の供養塔と伝えられる五輪塔が一〇数基あり、これも伝承に過ぎない。」と述べています。鈴村さん以降、『県央史談』には荻野氏に関する新たな研究発表はありません。そこでこのたび、ゴルフ場の造成工事を機に史跡めぐりを行い、伝承を元に私の推論を述べさせていただきます。

（荻田 豊）

【基本情報】登場人物と石祠 （荻野氏を名乗つた者たち）

- 1、荻野四郎忠義・荻野郷を姓とした文献（保元物語・一二一九（一一五年ごろ成立）に見える最初の人）
- 2、保元の乱（一一五六六年）鎌倉氏族
- 3、荻野五郎俊重・石橋山の合戦に平氏方で参戦し、のちに斬罪（一一八〇年）横山党

3、荻野二郎景員・幕府弓始の儀式（一二〇五年）鎌倉氏族・梶原氏

（右面） 《荻野四郎忠義居蹟の石祠銘文》

用田神社 荻野四郎忠義居蹟也
(左面) 元久元年冬 従五位下大江季光造営
(台座左面) 天明三年 小林金左工門正直再修
明治三十一年夏 小林春義石祠建

（毛利莊の莊園領主）

- 1、陸奥六郎義隆・森（毛利）の冠者 荻野神社西側に屋敷があつたと云われ、「六郎屋」の字名が残る荻野小学校正門前を荻野川に下る途中に「六郎屋」の標柱がある 平治の乱（一一五九年）で討死
- 2、毛利季光・大江広元四男 毛利元就の祖

【推論】

『黄色いチラシ』「荻野」にとつて大切な場所①～⑥

- 1、石祠銘文の年号元久は承久の誤りか？→①
- 2、大江季光の造営理由→②
- 3、荻野氏の流れ→③④
- 4、小野吉男家に供養塔がある訳→③⑤
- 5、小林家の修復理由→⑥
- 6、用田神社の「用田」とは→⑥
- 7、陸奥六郎義隆と荻野四郎忠義の関係（保元・平治の頃の荻野→⑥）

一九三五年神奈川県名勝・史蹟投票

一 横浜貿易新報社四五周年記念事業

一九三五年、横浜貿易新報社（以下、横貿）では、九一〇年から社長であつた三宅磐が死去し、嗣子市郎が社長に就任した。同社では、新社長就任と、三五年が創業四五周年にあたることから、これらを記念して九月から本県警察博覧会・自転車選手権競走など八つの事業を行つた。

このなかで最初に行われた事業が、四五周年に因んで県下四五箇所の名勝・史蹟を読者投票によつて選定する事業であつた（名勝史蹟四十五佳選）。新聞社による各種人気投票は明治時代から行われており、名勝等では一九二七年東京日日・大阪毎日が行つた日本新八景が著名である。これは、投票の過熱化から「二十五勝十百景」が追加されたが、不買運動が起つたほどであった（白幡洋三郎、一九九二など）。

昭和初期は、一九一八年制定の史蹟名勝天然紀念物保存法などによる保存運動の高まりや觀光への注目が拡大した時代であった。神奈川県内においても史蹟の保存や景園地計画などが進められており、三五年の横貿紙面にも多くの関連記事が掲載されていた。このような中で投票が企画された。

事業意図と投票規定

横貿は、この事業を次のように説明

している（9・3）※『横浜貿易新報』の日付、以下同じ）：新しくして古き歴史とともに拓かれて來た近代県神奈川は『武相の天地』が描く『風光明神奈川』であるが、その存在は「宝の持ち腐れ」であり、名勝史蹟による土地の発展は著しいものがあるのに、有名地も声なくしては忘れられてゆくのであり、そこで「欲求するものは『世に出す機会』である」と、その絶好の機会がこの投票であると、また風景神奈川と風光明神奈川と（9・4）など、全県が名勝史蹟の宝庫であることを強調している。もちろん、これによつて販売部数が増加することも期待されていたのである。

この投票は、九月五日から一〇月五日までの三日間、次のような規定の下に行われた（9・5）。名勝史蹟は神奈川県下のものであり、名称は新名称でも差し支えないこと。投票には名称と所在地を記入すること。投票用紙は紙面刷り込みを切り取り記入すること。これは五日から毎日二票が掲載されたので、三一日間で六二一票となる。

選定された名勝史蹟には、記念標の建立、一〇位までに扁額の進呈、紙面上での紹介や絵葉書・写真帳を作製して紹介宣伝することを謹んでいた。また、投票が既に始まっていた七日には、紙上の俳壇・柳壇の選者である

投票の推移

五日から始まつた投票は、翌六日の紙面から、連日、各地の得票経過が報じられた。その見出しが、多くは軍隊になぞられ、また、ときには野球になぞられて興味を盛り立てていった。

初日の様子を伝えた六日の見出しが、宣戦の烽火挙り／登場の名勝史蹟／震生湖、桃雲台、衣笠城跡／靈地に沸く善男善女の熱狂」とあるが、一位の震生湖・桃雲台の得票は三四票に過ぎなかつた。

翌日以降も「三眼六足稻荷／見事な三段飛び／各地群雄を抜き悠々たり／戦線に灼熱の火花（9・13）」旗を打連ねて／『峰のお灸』王座／全村本紙購読を決議して／「宮ヶ瀬渓谷」の奮起（9・17）期成会各地に活躍／『峰の円海山』薦進／目覚し渋谷／重國城趾天満宮／城山も一気に爆撃（9・23）ヒツトヒツト見事な好打だ／『志田山朝日寺』万歳／『城山』勇躍して五位陣へ／萩の宝泉寺も逆襲だ（9・27）「敵かに最後の審判／死闘力戦の一回／けふ締切は午後五時／油断は大敵、爆撃（9・10）など、連日、様々な見出しを駆使して、投票を盛り上げていった。



浅間神社 西区浅間町